

PRESS RELEASE

No. 1

2008年11月11日
社団法人大阪国際見本市委員会

これからの住空間要素を提案する国際見本市 “LIVING & DESIGN”開催

社団法人大阪国際見本市委員会（理事長：鰐淵 文雄）は、これからの住空間要素を構成する国内外のデザイン性に優れた企業やクリエイターによる製品を一堂に集めた国際見本市『リビング & デザイン』を下記概要で開催致します。

見本市正式タイトル：

和文/リビング&デザイン - これからの住空間要素展 -

英文/LIVING & DESIGN - The Future of Living Spaces -

開催日時：

2009年9月16日（水）～18日（金） 10:00～17:00（最終日16:00まで）

会場：

インテックス大阪 大阪市住之江区南港北1-5-102

募集規模（予定）/ 対象：

150社/ 住宅、リフォーム関連、デザイン家具・インテリア、照明、インテリア家電、ホームテキスタイル、インテリアアクセサリ、住宅設備機器等デザイン性を重視した生活空間に関連する全ての製品とインテリア及び建築デザイナー、クリエイター作品。

これからの住空間要素展

日本では、住空間、或いは住環境の中でのデザインの役割に対する意識と理解は決して進んでいるとは言えず、今、大きな改革を必要としています。長い歴史の中で育み築き上げられてきた日本のアイデンティティーが戦後大きく変化する中、経済成長の陰で後回しとなり置き去りにされてきた『住空間』は、人々の心と生活を豊かにするうえで、もっとも重要な基盤と言えます。

感性の高い住空間は、生活の質を向上させ、精神的豊かさをもたらし、そこからは、充実した生活と創造が生まれます。この動きは同時に、低迷する住環境産業の未来への道標となり経済の活性化へもつながっていきます。

情報化時代が進み、改めて見本市の意義が問われる今、見本市だからこそできる事、そして日本だからこそ発信できる事は何かを考え、『リビング & デザイン』-住空間要素展-の開催を決定しました。

単にモノを展示する見本市に終わるのではなく、見本市の場からこそ直接発信できる住空間に含まれる全ての製品＝「要素」の組み合わせによって創造される住空間の見せ方を提案していきます。そして、その過程も含めデザインが果たす住空間の中での役割に焦点をあて、デザインの力を最大限に引き出し、モノのデザインのみならず、価値としてのデザインを新たに切り開いていきます。

展示会の開催に向け関係各方面へ呼び掛けるにあたり、多くの賛同の声が聞かれ、本見本市への期待が多く寄せられています。歴史、伝統、文化と、選り抜きの豊かな土壌に恵まれた関西が、これまで多くのクリエイターを生み出し、育ててきた背景を考えると、その才能を直接発信できる場で、この国際規模の見本市が開催されるのは、ごく自然のことと言え、また非常に意義深いといえます。

「真の意味での素敵な暮らしとは何か」『リビング&デザイン』は、この課題を見本市という場から投げかけ、住環境の改善と活性化の起爆剤の役割を担って、大阪から世界に発信していきます。

「従来とは一味違う新しい発想の国際見本市です」

『リビング&デザイン』は、新たなビジネスの形の可能性を具現化する場として、国際規模で世界へ発信していきます。光、そして音まで含んだ住空間を創り出す立体的要素を含んだ出展対象は、住宅、デザイン家具・インテリア、デジタル家電、ホームシアター、LED照明、デザイン性を重視した楽器、そして空気までに及びます。私たちを取り囲む経済・環境問題がダイレクトに実生活に負荷をかける中、消費サイクルの早い時代は終わり、今後ますます、真に価値あるものだけがセレクトされ、重要となってくるでしょう。この見本市は、社会、環境問題に目を向けながら『厳選されたものに囲まれた素敵な住空間』のためのソフト・技術提案をビジネスを中心に展開するB to Bの国際見本市であり、「素敵な暮らし」の提案に前向きな中小企業から大企業・海外企業、デザイナー、職人、技術者を含めた出展メンバーひとり一人、一社一社が、これからの住空間を構成していきます。

見本市企画に喜多俊之氏、間宮吉彦氏、川上玲子氏が参画

住空間要素による素敵な暮らしの提案の実現にあたり、これまでの国内展示会の概念を大きく変える試みに挑んだ本見本市プロジェクトには、プロデューサーに喜多俊之氏、クリエイティブ・ディレクターに間宮吉彦氏、またコーディネーターに川上玲子氏が参画、コンセプトから監修に至るまで、積極的にかかわり、指導的役割を果たしています。

ミラノ・サローネ等の海外見本市での経験を積み、世界的に活躍するプロダクトデザイナーの喜多俊之氏は、ソウル、香港、シンガポールをはじめとするアジアの各都市が、昨今、デザイン都市としての位置付けを上げていく中、日本の住環境への意識のたち遅れを危惧、意識向上と改革の必要性を強調しており、海外と日本の住環境の違い等根本的諸問題も考慮しながら、今後、感性の高い住空間を発信する本見本市の必要性を強調、立ち上げから先導的役割を担っています。

また、クリエイティブ・ディレクターとして、見本市全体のデザイン面、コンセプトを打ち出す会場構成全般やテーマゾーンを創作する空間デザイナーの間宮吉彦氏は、『この展示会の中にいるからこそ、五感で感じることでできる、ストーリー性のある会場を造り上げたい。』と、会場コンセプトは、これまでの見本市の概念を排除してスタート地点から考え、常に動きのある空間、来場者や出展者、セミナー講演者に至るまで、あらゆる参加者が自然に行き交うことにより、新たな創造が生み出されるような独自の会場構成を構想中です。

最後に、日本インテリアデザイナー協会の前理事長 川上玲子氏は、豊かな経験の上に築かれたライフスタイルに関する考えを見本市コンセプトに反映すべく、国際的視野と感覚から、特別企画やデザイナーブース、小間装飾全般について、指針、方向性をコーディネートしていきます。

メゾン・エ・オブジェやミラノ・サローネも開催に期待

『リビング & デザイン』のプレイベントとして本年5月にロイヤルホテル大阪で開催した「リビング & デザイン フォーラム」には、メゾン・エ・オブジェから SAFI 専務理事 エティエンヌ・コシェ氏、ミラノ・サローネからサテリテディレクターのマルバ・グリフィン・ウイルシャー氏、イタリアデザイン誌 DESIGN DIFFUSION NEWS 編集長 カルロ・ルドヴィコ・ルッツ氏、コーディネーターとしてプロダクトデザイナーの喜多俊之氏がパネリストとして参加、国内外のインテリア業界の現状とこれからについて熱心に語り、「LIVING&DESIGN」に強い期待と熱いメッセージが送られ、このフォーラムには定員の200名を超えるメーカーやデザイン・設計、住宅関連等の参加があり、この見本市に対しての、業界関係者の期待と関心の高さを示しました。

海外のメディアも既に注目

質の高い本格的な国際見本市を目指すこの見本市は、出展、来場ともに、国内はもちろん、海外メディアに向け、広報活動を展開しています。フォーラムを機に、イタリアのデザイン誌『DESIGN DIFFUSION NEWS』でも、『リビング & デザイン』とその意義は、既に大きな話題として、その誌面に取り上げられており、既に世界への発信が始まっています。

街をあげて住空間都市 に！

「LIVING&DESIGN」の開催期間中に、本見本市がビジネス業界に向けて発信するのに対し、エンドユーザーとなる一般市民の方々対象に、住空間の価値と関心を深め、感性を高めていくことを目的に、中之島や御堂筋を中心にイベント、セミナーなどの開催の企画を予定していきます。

見本市会場を発信基地として、大阪の街をあげ、周囲も巻き込んで住環境とライフスタイルへの感性を刺激し高め、相乗効果をあげていこうと、関係各諸機関、諸団体への協力を働きかけていく予定です。

問い合わせ先

社団法人大阪国際見本市委員会
担当:事業部 愛屋、道廣
〒559-0034
大阪市住之江区南港北 1-5-102
TEL: 06-6612-1761
FAX: 06-6612-8585
URL: <http://www.fair.or.jp/living/>

LIVING & DESIGN

これからの住空間要素展

メンバープロフィール

リビング&デザイン プロデューサー



喜多 俊之 (Toshiyuki Kita) プロダクトデザイナー

1969年より、日本にとどまらず、環境および工業デザイナーとして、イタリアを始め国際的に制作活動を広げていく。ヨーロッパや日本のメーカーから、家具、液晶テレビなどの家電、ロボット、家庭日用品に至まで、多くのヒット商品を生む。作品は、ニューヨーク近代美術館、パリ ポンピドーセンター、ミュンヘン ピナコテカ デ モダン等、世界のミュージアムに多くコレクションされている。近年は、日本だけでなく、ヨーロッパ、アジアなどで、セミナーやワークショップを開く等、教育活動にも力を入れている。ライフワークとして、日本の伝統工芸に取り組む他、地場産業を活性化する仕事に関わり続けている。大阪芸術大学デザイン学科教授。

リビング&デザイン クリエイティブ・ディレクター



間宮 吉彦 (Yoshihiko Mamiya) 空間デザイナー

1958年 大阪生まれ。1991年 (株) インフィクス設立。
全国で飲食、物販などの商業施設の空間デザインをはじめ、あらゆるジャンルのインテリアから建築まで空間をトータルに手がける。特定の様式や主義にとらわれることなく、時代の欲するムードを表現し、その中に潜む普遍性を追求する。2003年上海事務所を設立、ワールドワイドに活躍を広げている。

主な著書に「STYLE INFIX」(商店建築社：2003)。

「SPACES & PROJECTS X 100」(文藝春秋社：2004) 近年代表作に有楽町丸井環境計画、decora TOKYO、UNITED ARROW梅田店、MIZUNO SHOPなどがあげられる。

リビング&デザイン コーディネーター



川上 玲子 (Reiko Kawakami) インテリア&テキスタイルデザイナー

(有) フォルムSKR デザインスタジオ&スキャンディックハウス 取締役代表

(社) 日本インテリアデザイナー協会 前理事長 現在顧問

北欧建築・デザイン協会理事

女子美術短期大学、桑沢デザイン研究所卒業後、通産省工芸試験所(現経済産業省)デザイン研究生を経て前川国男建築設計事務所に勤務。その後スウェーデン国立工芸デザイン大学留学、帰国後武蔵野美術大学非常勤講師などデザイン教育に携わりと共に岡山県庁、横浜市中心図書館など公共空間のインテリアやテキスタイルアートを手掛ける。

又、日本におけるスウェーデン家具のプロデュース、プロダクトテキスタイルとして「川上玲子ブランド」の開発を行っている。

1994年度JID賞「インテリアスペース部門賞」受賞 他